

道産広葉樹の中小径木を内装材や家具へ利用

今まで利用が進まなかったカンバ類からの高品質製品の製造を検討しました

背景

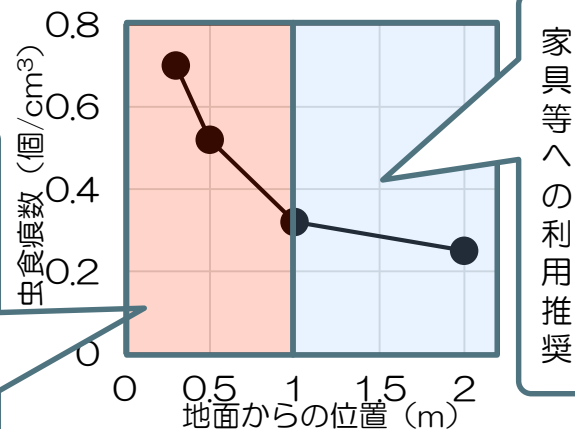
- 道産カンバ類（シラカンバ、ダケカンバ）は、材面に現れる食害の痕（虫食痕）が多いこと、中小径の材が多いこと等から、内装材や家具等の材料としては利用されていませんでした。
- 近年、これらの用途に適した広葉樹材の入手が困難になりつつあり、資源量の多い道産カンバ類の利用要望が高まっています。



材面に現れた食害の痕（虫食痕）

成果

- 家具等の材料に適した活用部位
虫食痕数と地面からの位置の関係を調べ、家具用材に適した部位を明らかにしました。



- 中小径材の利用技術の開発
製造方法や採算性の検討により、内装材や家具に活用できることを明らかにしました。

直径 (cm)	製造可能な製品	用途	これまでの製品
~14	チップ	紙・燃料	チップ
14~	合板 LVL*	フローリングを含む内装材	
18~		内装材 家具等	
20~	製材		製材

*LVL(単板積層材)：木材を薄い板に加工し、欠点を除去して積層接着した材

- 家具や内装フローリングの開発
強度試験等を実施し、実用性を確認しました。



試作したダイニングセットと内装フローリング

期待される効果

- 用途ごとの原木の基準が明確になったことから、チップよりも高価値用途における道産のカンバ類の利用促進が期待されます。